

宮久保小学校だより

明日への扉

令和4年11月 No.19



学校教育目標：「夢に向かって挑戦」 <<Challenge for Dream>>

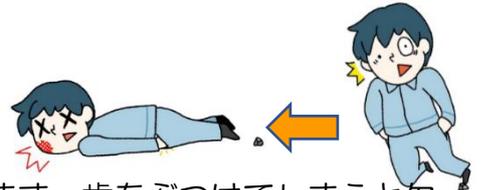
冬季の安全について

11月7日に立冬を迎え、暦の上では冬を迎えました。朝の登校時には、気温も低くなり手袋をして登校する子も増えてきました。日の入りも早くなり、17時には真っ暗です。冬季の登下校時に気を付けなければいけないことも増えてきます。学校でも指導していますが、ご家庭でも、ご指導お願いします。

○ポケットに手を入れての歩行

寒くなくても、ポケットに手を入れて、登校する子もいます。手持ち無沙汰なのか、癖になっているかもしれません。

ポケットに手を入れたまま、つまずいた時には、多くの場合において、手をつけずに顔や頭をぶつけてしまいます。歯をぶつけてしまうと欠損や唇の裂傷の心配があります。また、目をぶつけた場合には視力低下も心配されます。



○フードをかぶっての歩行

少し空きがあるフードは首を左右に動かしても、フード自体は首と一緒に動きません。

絵のように視界が狭められ、左右の安全確認ができないことが多いです。とっさの場合、自身の安全を確保することが遅れます。



○路面の凍結

雨が降った後の水たまりが翌朝、凍結することがあります。凍結しているので、それを割ろうと傘の先でたたいたり足で割ろうとしたりする子がいます。薄くて硬いのでなかなか割れず、無理な力をいれて滑ってしまい、後頭部をぶつけることもあります。



～過信しない気持ちを～

日の入りも早くなり、17時には真っ暗です。習い事で、この時間帯から出かけたり、帰宅したりする子もいます。子どもたちの中には、自動車やバイクのヘッドライトが明るくて、運転手には、自分（歩行者）の動きが見えているだろうと思っている子もいるようです。そういった過信が思わぬ交通事故に巻き込まれることもあります。

小学生が事故に巻き込まれたりする中には、よく知っている場所で、親の目がちょっと離れた隙に起きるということもあります。命は何よりも大切なものであり、それに代わるものはありません。交通事故に限らずとも、非常災害、事件等に巻き込まれることもあります。「これくらい大丈夫だろう」ではなく、「もしかしたら」という考えをもつよう様々な場面で指導していきます。ご家庭でも、ぜひ話し合ってみてください。